

育む

はぐくむ

公益財団法人 北海道青少年育成協会 機関誌

令和5年(2023)
9月発行

No.31

公益財団法人北海道青少年育成協会

北海道の次代を担う青少年の健全な育成に寄与することを目的としています。



令和5年度「少年の主張」全道大会を4年ぶりに会場で開催(3ページ参照)

Contents

●開催報告

令和5年度 北海道青少年育成大会	2
令和5年度 「少年の主張」全道大会	3
令和5年度 青少年育成地域合同会議	4

●地域活動紹介

青少年育成に関する市民組織の活動(帯広市・稚内市)	5
---------------------------	---

●「北海道青少年のための200冊」

	6
--	---

●北海道青少年基金

令和5年度 交付団体・顕彰団体	7
-----------------	---

●その他

「道民家庭の日」関連事業／賛助会員の募集	8
----------------------	---

令和5年度 北海道青少年育成大会（「少年の主張」全道大会） 2023年9月8日（金） 北海道立道民活動センター（かでの2・7）／札幌市

「少年の主張」全道大会が4年ぶりに実開催！全道から約320名の関係者が参集

今年5月に新型コロナウイルスが5類に移行し、4年ぶりに制限なしでの開催となり、全道から約320名の青少年育成関係者が集いました。

午前中は、青少年の育成に功績のあった方々の各表彰式や、全道の地区代表15名の中学生による「少年の主張」全道大会が開催されました。

午後は、山崎夏生氏（審判応援団長）による基調講演の後、厚真町教育委員会の斉藤烈社会教育主事によるけん玉パフォーマンスを交えた活動発表があり、最後に「少年の主張」の結果発表・表彰等が行われ、4年ぶりの大会を締めくくりました。



北海道社会貢献賞、北海道青少年基金事業顕彰の表彰式

永きに渡り、青少年の健全育成活動にご尽力された10名に、北海道野澤子ども応援社会推進監から北海道社会貢献賞が贈られました。

優れた活動を展開する青少年団体の功績を讃え、どさんこ青少年オーケストラ協会（札幌市）に当協会竹谷会長より北海道青少年基金事業顕彰を贈呈しました。（7ページ参照）

また、表彰式に参加したどさんこ青少年オーケストラのコンサートマスターの水間凜さん（高校2年生）・半澤真菜さん（高校1年生）によるミニコンサートが開催され、会場に華やかな音色が響き渡りました。

活動発表

一 胆振東部地震での子どもの居場所「ハッピースターランド」等の活動を発表 一

厚真町教育委員会の斉藤烈社会教育主事から、胆振東部地震の被災2日後に、町の子どもの居場所と遊び場として「ハッピースターランド」を開設し、避難所生活の子どもの精神的な支えとなった活動事例を紹介いただきました。

また、ご自身の特技であるけん玉を活かして立ち上げた「厚真けん玉クラブ」について、クラブでの活動の様子や、様々な行事を通して地域の子どもからお年寄りまで町民の交流の場を設けるなど、誰でもできるけん玉によるコミュニティづくりについて、発表をいただきました。



基調講演

演題 「一途一心の野球道」

審判応援団長（元NPB審判技術指導員）

やまざき なつお
山崎 夏生 氏



スポーツ新聞社での勤務を経てプロ野球（パシフィックリーグ）の審判員に転じた異色の経歴を持つ山崎さん。「プレイボール!!」と大きく宣言して講演が始まりました。

扉をこじ開けたのは情熱

「審判になりたい」ではなく、「審判になる」と決意し、会社を辞めました。自ら退路を断って必死にトレーニングに打ち込み、現役審判に押し掛け入門して勉強しました。努力は報われるのです。直談判したリーグ会長から「何よりも仕事への情熱を感じた。頑張りなさい」契約を認められたのです。審判への扉をこじ開けたのは、情熱でした。

神様のプレゼントをもらう

こんな大男ですが、僕はプレッシャーに弱く、本番では80%の力しか出せなかった。ならばどうするか、125%の力を付けたいのです。そのためには練習しかありません。何万球もボールを見ました。すると、審判の構えをして物を見れば、その幅がホームベースの幅より長いかわかるようになりました。たくさん練習した者に神様が与えるプレゼントを僕は貰うことができたのです。自分の力を発揮できる自信がいたのは、練習のおかげです。

ひたむきさが応援を呼ぶ

上手いかわからないことの原因は、ほとんど自分にあります。そ

れを認めてひたむきにやれば、応援してくれる人が必ず現れます。僕にも多くの挫折がありました。誤審でホームラン判定をした翌日、ファンからの罵声に心が折れそうになっても、「逃げてたまるか」とグラウンドに立ち、全身全霊を傾けて球を見る。その姿を見て応援してくれる人が僕には大勢いたんです。

若い人達に伝えたいこと

大切なのは自分の定めたゴールに向かうことです。順番ではありません。報われるのは1/10かもしれないけど、それが9倍に膨れ上がるんです。自信をなくして下を向くことがあっても、情熱を失わずに前を向くんです。最後に寺山修司の言葉を贈ります。「振り向くな、振り向くな、後ろには夢はない。」

「大変な力をもらいました」

公演後、参加者から次のような感想をいただきました。「山崎さんのお話には、大変な力をもらい、怠けた自分を反省するとともに、今日から胸を張って生きていきたいと感じました。」

「興味深いお話で1時間があっという間でした。人の所為にしない、情熱は確かに大切だと思います。」

令和5年度「少年の主張」全道大会

4年ぶりの実開催！
社会に向けての思いや未来への希望を堂々と発表

1979年（昭和54年）の国際児童年を記念して始まった「少年の主張」全道大会。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は中止、令和3・4年度はWEB開催だったため、会場での発表は4年ぶりとなりました。今年は道内287校から2万7千人の応募があり、各地区大会を経て、16名が全道大会に進み（当日1名欠席）、厳正な審査の結果、上川地区代表の三浦かなさん（下川町立下川中学校3年）が最優秀賞となり、北海道代表として北海道・東北ブロックに選出されました。



「少年の主張」全道大会
発表者のみなさん

受賞者のみなさん

最優秀賞（北海道知事賞）

三浦かなさん（上川）下川町立下川中学校3年
「恨みを愛へ」

優秀賞（北海道教育委員会教育長賞）

中川 心結さん（札幌）札幌市立宮の丘中学校2年
「自分の心を大切にす ～新自己中のすゝめ～」

奨励賞

※当日発表順
（当日1名欠席）

飯田 冴さん（宗谷） 利尻町立利尻中 3年	唐崎 愛華さん（根室） 標津町立標津中 3年	伊藤 日和さん（留萌） 遠別町立遠別中 3年	平尾 萌花さん（渡島） 北斗市立浜分中 3年
大柳 茉耶さん（日高） 浦河町立浦河第一中3年	水上 桜佑さん（檜山） 乙部町立乙部中 3年	嵯城 蓮人さん（釧路） 釧路市立幣舞中 3年	岩山 心咲さん（オホーツク） 斜里町立知床ウトロ中 9年
坂 夢叶さん（札幌） 札幌市立平岸中 2年	矢部 優実さん（石狩） 千歳市立千歳中 3年	久保田翔子さん（後志） 蘭越町立蘭越中 3年	山野 紗璃さん（十勝） 中札内村立中札内中 2年

優秀賞（北海道PTA連合会会長賞）

内崎いおりさん（空知）岩見沢市立明成中学校3年
「人との関わり」

優秀賞（（公財）北海道青少年育成協会会長賞）

笠原 桜空さん（胆振）厚真町立厚南中学校3年
「当たり前」

最優秀賞 （北海道知事賞）

「恨みを愛へ」

下川町立下川中学校3年

みうら
三浦 かなさん



「み…みず！水！」

まただ。また妹がうなされている。5年前、末の妹が保育園の送迎バスに置き去りにされた。何人もの大人が確認を怠り、妹はバスの中でだんだんと意識を失っていった。偶然早く迎えに来た母が気づいたことで、発見された。新聞に掲載されたのは、「命に別条はない」の一文。しかし、別条がないというのはただ生きているというだけで、今までの日常が戻ってくるわけではなかった。

あの日から、私たちの生活は一変した。妹は事故のトラウマで夜中に泣き叫ぶようになった。ひとりでトイレに行けなくなった。村の安全対策に疑問を持ち、私たちは隣町に引っ越すことになった。家族みんなが不安定になり、母から笑顔が消えた。妹は引っ越しのストレスで脱毛症になった。こうなったのは事故のせいだ、不注意な大人のせいだと、私は毎日事故を恨んだ。

当時私はまだ小学生だったが、何とかしたいと強く願った。苦しむ子どもが出ないように、壁新聞を作ったり作文を書いたりして社会に訴えかけた。しかし、当事者になるまでみんな他人事で、誰も耳を傾けてはくれなかった。

そんな時、私たちに転機が訪れた。息子さんを保育中の川の事故で亡くされた方と知り合ったのだ。ライフジャケットさえ着ていれば守れた命だった。その人は、二度と同じような事故が起こらないように、ライフジャケット着用を呼びかける活動をしている。

会う前は、彼女も私と同じように社会を、事故を恨んでいると思っていた。しかし実際に会った彼女は、おだやかで、笑顔がすてきな方だった。

失礼ながら私は「あなたは事故を恨んでいないのですか？」と聞いた。すると彼女はこう言った。

「もちろん、事故のことは憎い。だけど、その恨む気持ちは置いておいて子どもの命を守ることを第一に活動している。」

笑顔を忘れずに、活動を自分自身が楽しむ。そうすると、自然と共感してくれる仲間が増えていくという。

私はその姿に心動かされた。確かに、事故を恨んでいることを訴えても、そこから何も生まれない。関係者への恨みが増すだけで誰もハッピーにはならない。

私達は、これまで抱いてきた事故や社会への恨みを、社会への愛に変えることにした。これ以上苦しむ人がいなくなることが、私達の最大の願いであるということに気づいたからだ。

それから私達は、社会を巻き込んで活動していった。大好きな野生生物の命を守るため、この4年間家族で毎月ゴミを拾っている。水の事故を無くすため、2年かけてライフジャケットレンタルステーションを設置した。

髪がない辛さを知り、妹達と、3回目のヘアードネーションに挑戦中だ。目の前にはいない誰かと繋がっている気がする。こうやって小さいけれど、少しずつ楽しみながら社会を変えていこうと今も活動している。

私が住む下川町は昔、小学生が自転車事故で亡くなったことをきっかけにヘルメット着用を推進している。何十年も前の死が、そのまわりの人々の活動が、今の私たちの命を守っている。私たちは見ず知らずの誰かの愛に支えられて生きているのだ。

意識していなくても、私たちみんなが社会と繋がって社会を作っている。安全な社会を作っていくのは他でもない私たちひとりひとりだ。これからも、立ち上げられない程の苦しみや悲しみを経験することがあるかもしれない。

私は、そんな時こそ恨みに心が占拠されないようにしたい。

過去を恨むのではなく周りへの愛に変えることで、未来はきっと変えられる。

令和5年度 青少年育成地域合同会議

2023年5月15日～7月4日 全道14会場で開催

当協会では、地域全体で青少年の健やかな育成に取り組むため、地域の青少年育成に携わる関係者と、青少年育成地域合同会議を14（総合）振興局で開催しています。

令和5年度は、5月15日の檜山振興局を皮切りに約2ヶ月間にわたり開催しました。会議では、北海道（振興局）、北海道教育委員会（教育局）、当協会からそれぞれ説明し、北海道警察から青少年の非行状況について情報提供を頂きました。その後の意見交換では、地域で活動する青少年育成推進指導員から、昨年度の活動状況を中心に報告があり、「コロナ禍でできなかった事業を復活した」「縮小して実施した」「新しい取り組みを行った」などのお話がありました。今回は、その一部をご紹介します。



青少年育成地域合同会議（檜山）

< 活動内容 >

- ・親子がふれあう機会を増やすため水族館見学やリンゴ収穫体験を実施した。（小樽市）
- ・子ども110番の家を訪問し、子どもへの対応の仕方や表示を再確認した。（歌志内市）
- ・近隣の町と合同で事業を実施し、子どもたちの交流ができた。（由仁町）
- ・高校生ボランティアの協力でクリスマス会を実施した。（長沼町）
- ・小中学生の標語コンクールやあいさつ運動を実施することができた。（江差町）
- ・市内の青年団体・サークルが活動を発表する場がコロナ禍でなくなり、Youtubeで配信した（函館市）
- ・3世代でわかさぎ釣りを体験した。（北斗市）
- ・「道民家庭の日」に因んで、親子で参加できるフラワーアレンジメント教室を実施した。（伊達市）
- ・北海道教育大学札幌校の学生と小学生の体験交流会を3日間実施した。（猿払村）



三世代わかさぎ釣り体験（北斗市）



フラワーアレンジメント教室（伊達市）



北海道教育大生と小学生との交流（猿払村）

< 成果 >

- ・規模の縮小やコロナの感染対策の徹底で、事業が実施できることがわかった。
- ・日頃の育成活動に協力をいただいている地元企業が、Jアラートの際に声かけをするなど子どもたちを守る行動をしてくれた。
- ・コロナ禍で事業が実施できなかった間に、ノウハウが十分に伝わらずに失われてしまったので、新たな内容で事業を実施した。
- ・地域のお祭りで小中学生の元気がいい姿を見ることができた。
- ・子ども会の数が減ったため、昨年度、新たな子ども会を一から作った。
- ・子どもたちが自分たちで考えて活動できるような自主運営組織をつくった。
- ・新しい取り組みとして、子どもを対象とした事業だけでなく、子どもからお年寄りのための生涯学習を兼ねた事業へシフトチェンジをした。

< 課題 >

- ・青少年育成運動推進指導員の人材確保が難しくなってきている。
- ・コロナ禍により団体の解散や行事の指導ができる高齢者が減ってしまった。
- ・高齢化で行事の実行委員会が解散してしまった。
- ・見守り・パトロールボランティアを募集しているが、若い人の応募がなく高齢化が進んでいる。
- ・コロナ禍での活動制限の影響で行事への参加者が減った。

< 今後に向けて >

- ・事業をコロナ前に戻すのではなく、事業の在り方や内容を見直すことも考えたい。
- ・対象を小学生に限定していた事業を中高生が参加できる形に発展させたいと考えている。
- ・子ども会の組織がないため行事ができていないのが現状。放課後子ども教室を通して何かできたらと考えている。
- ・地域の行事に参加する児童がコロナ禍により減少した。今年度はできる限り行事や事業を再開し、子どもたちに参加してもらいたい。

地域活動 紹介

青少年育成に関する市民組織の活動

道内には、青少年育成市町村民会議など、青少年育成に関する活動や協議を中心的に担う組織が149市町村に設立されており、地域の実態に応じた様々な活動が行われています。今回は、帯広市、稚内市の活動について紹介します。

帯広市

帯広市青少年育成者連絡協議会（設立：昭和36年） 「ジュニアリーダー養成」

帯広市青少年育成者連絡協議会は、昭和36年に発足し令和3年に設立60周年を迎えました。現在、「次代をきり拓くたくましさ」と豊かな心を持つ青少年を育てよう」という目標を掲げ、各町内会の「青少年委員」や地域指導者の「青少年育成者」で構成され、各小学校区から選出された地区理事を中心に、地域ぐるみで多彩な活動を行っています。特に、小学校6年生を対象にしたジュニアリーダー養成講座「あすかの会」では1年間を通して体験活動を実施しています。

〔主な活動〕

- ジュニアリーダー養成講座「あすかの会」
 - ・春季・秋季宿泊研修会
 - ・子ども会リーダー宿泊研修会
 - ・ボランティア体験①②（車椅子体験、赤い羽根共同募金）
 - ・秋季リーダー研修会
 - ・クリスマス会
 - ・メッセージ発表学習会・メッセージ発表会
 - ・冬季イベント（十勝子ども雪上ばんば参加） など
- 地域子ども会リーダー宿泊研修会（春季～5・6年生、秋季～4・5年生）
- わくわくこどもまつりへの参加
- 青連協だよりの発行（年2回）
- 育成者対象の講演会や実技講習の開催



地域子ども会リーダー宿泊研修会



十勝子ども雪上ばんば

稚内市

稚内市子ども安全育成センター（設立：平成12年） 「子どもたちを犯罪や事故から守る」

稚内市子ども安全育成センターは、前身の「青少年育成センター」の活動を引き継ぎ、子どもたちを犯罪や事故から守るために日夜活動しています。

専任育成員さんたちが、日曜日を除く毎日市内の巡回パトロール、祭典時やスキー場の巡回をしながら、必要に応じて声かけをしたり、子どもたちと会話をしたりしています。地域の方、保護者、学校等から寄せられる不審者に関する情報を収集し各校へのファックスやメール配信などもしています。

スクールガードボランティアさんたちが、登下校の時間帯に見守り活動をしています。子どもたちと挨拶を交わしたり、子どもたちの成長を見られたりするなど、とてもやりがいを感じているようです。

〔主な活動〕

- 街頭育成指導（巡回パトロール）
 - ・通常街頭育成指導 月曜～土曜（夏 14:30～19:00 冬 13:30～18:00）
 - ・定例街頭育成指導 年間 33回実施（金曜日）
 - ・特別街頭育成指導 年間 14回（祭典・スキー場）
- 啓発活動
 - ・「校外生活のめあて」を毎年作成し、配布
 - ・「安心・安全マップ」「交通安全のちかい」を新入児童へ配布
 - ・「青少年非行防止ポスター・標語コンクール」を実施し、優秀作品を表彰・展示
 - ・スクールガードボランティア登録の推進
 - ・不審者情報の収集とFAX・メールでの配信
 - ・センターだよりの発行（年間6号）
 - ・「稚内市子ども安全育成センター街頭育成指導日誌通信」



登校時の見守り



スクールガードボランティア全市交流会

「北海道青少年のための200冊」

—よい本で 美しい心 強い心—



今年の新選図書は45冊

青少年が、「美しいものに感動する心」「自分の頭でものを考える態度」を養うためには、良い本に接する機会が大切です。当協会では、北海道学校図書館協会と北海道読書推進運動協議会の協力をいただきながら、毎年「北海道青少年のための200冊」を選定しています。今年度は、新たに45冊を選定しましたので、その一部を紹介します。

幼児の部		小1の部		小2の部	小3の部		小4の部
ママってすごい! BL 出版	わらってよピッコ 福音館書店	イライラのあらし 金の星社	トンちゃんってそういうネコ 汐文社	2ひきのカエル そのぼうきれ、どうするんだ? 徳間書店	バスが来ましたよ アリス館	貝のふしぎ発見記 少年写真新聞社	はじめましてのダンネバード くもん出版
小5の部		小6の部		中学生の部		高校生・青年の部	
父さんのゾウ 文研出版	たぶんみんなは知らないこと 講談社	ガリバーのむすこ 小学館	ちいさな宇宙の扉のまえで 続・糸子の体重計 童心社	かわいい子ランキング ほるぶ出版	スクラッチ あかね書房	三流シェフ 幻冬舎	不登校後を生きる 学びリンク

こどもの本ブックフェアほんのおまつり 2023 (札幌会場) に出展

8月7日(月)～9日(水)の3日間、デ・アウネ協同組合札幌総合卸センターにおいて、(株)トーハン北海道支店等の主催で児童書を展示販売する「こどもの本ブックフェア」が開催されました。会場には、児童書を中心に約3万冊が展示される中、当協会も展示ブースの一角をお借りし「北海道青少年のための200冊」の取組を紹介しました。

最終日には「道民家庭の日」イメージキャラクターの「ほーほーくん」が登場し、来場した子どもへ啓発物を配布しました。



「北海道青少年のための200冊」

ポスター掲載校 池田町立池田中学校の生徒の皆さんより

「普段の池田中学校の読書への取組が評価されポスターに掲載されたことをとてもうれしく思います。今後一人でも多くの人がたくさんの本を読んでいただけるよう頑張ります。」



令和5年度
200冊目録は
こちらから



令和5年度
新しく選ばれた
45冊はこちらから



北海道青少年基金

令和5年度 交付団体・顕彰団体

北海道青少年基金は、昭和53年に北海道110年記念事業の一環として創設されました。
この基金から生じる運用益は青少年の社会参加活動に活用され、これまで2,217団体に2億1千万円を交付し、147の団体・個人の顕彰しました。令和5年度の交付団体・顕彰者を紹介します。

●交付団体（交付額:75,000円又は50,000円）

番号	区域	市町村	団体名	事業別	事業内容	
1	空知	深川市	深川市舞台芸術交流協会	交流・体験	子どもまつり	
2		南幌町	南幌町子ども会育成連絡協議会	交流・体験	冬の宿泊研修（1泊2日）	
3	石狩	札幌市	上手稲コンドル野球スポーツ少年団	文化・スポーツ	野球による青少年健全育成	
4			宮の丘サッカースポーツ少年団	文化・スポーツ	サッカーによる青少年健全育成	
5			新発寒地区青少年育成委員会	文化・スポーツ	町内会対抗綱引き大会	
6			札幌オールブラックス	文化・スポーツ	学童少年野球	
7			北海道ライフスポーツ推進協会	文化・スポーツ	ジュニアクロスカントリースキー大会	
8			札幌市	北海道ライフスポーツ推進協会	文化・スポーツ	ジュニアクロスカントリースキー大会
9		江別市	大麻剣道スポーツ少年団	文化・スポーツ	剣道による青少年健全育成	
10			野幌地区青少年育成協議会	交流・体験	令和5年度「小中学生 作文・意見発表会」	
11			えべつあそび場創造プロジェクト	交流・体験	あそび場の提供	
12			江北地区青少年育成会	文化・スポーツ	相撲大会	
13			石狩管内広域	江別市スポーツ少年団	文化・スポーツ	ジュニアリーダーズスクール（1泊2日）
14			後志	小樽市	浅草橋オールディーズナイト実行委員会	文化・スポーツ
15	胆振	室蘭市	室蘭市青少年健全育成推進協議会	文化・スポーツ	子どもミニバレーボール交流会	
16		苫小牧市	飛翔スワローズ野球同好会	文化・スポーツ	少年野球による青少年健全育成	
17		苫小牧アミーゴ澄川	文化・スポーツ	サッカーによる青少年健全育成		
18	豊浦町	豊浦ジュニアチアリーディングクラブ Daisies	文化・スポーツ	チアリーディング及び異学年交流		
19	白老町	白老町青少年育成町民の会	交流・体験	少年の主張発表		
20	渡島	森町	砂原神楽会	交流・体験	伝統芸能「松前神楽」を市民に発表	
21	上川	旭川市	旭川市連合子ども会	交流・体験	子ども会リーダー研修会（1泊2日）	
22	オホーツク管内広域		北海道フロアボール普及プロジェクト	文化・スポーツ	フロアボール普及プロジェクト	
23	十勝	大樹町	大樹町地域子ども会育成連絡協議会	文化・スポーツ	子ども春季ミニバレー大会	
24	釧路	釧路市	スキルチャレンジ	文化・スポーツ	青少年育成クロスアイスゲーム	
25			釧路リベラルティ	文化・スポーツ	サッカー活動（キッズサッカーフェスティバル）	
26			日本大学サッカー部・阿寒合宿交流事業実行委員会	文化・スポーツ	サッカー競技・ゴールキーパーの向上	
27			東北北海道スポーツコミッション	文化・スポーツ	パラアスリート講師によるスポーツ体験	
28		標茶町	子どもの夢を育てるまつり実行委員会	交流・体験	まつりを通じた青少年健全育成	
29	釧路管内広域		くしろエコ・フェア2023	交流・体験	パネル展示・SDGs 関わったポスターの展示と表彰	
30	根室	別海ライジングスピードスケート少年団後援会	文化・スポーツ	スケートによる青少年健全育成		
31		別海町	別海町子ども会育成連絡協議会	交流・体験	地域振興・まちづくり活動・自然体験活動・交流事業	
32	全道		どさんこ青少年オーケストラ協会	文化・スポーツ	ジュニアオーケストラによる合同演奏	
33			北海道少年少女合唱連盟	文化・スポーツ	単独演奏・合同合唱	

■ 交流・体験活動事業～交流事業、体験活動

■ 文化・スポーツ活動事業～芸術活動、スポーツ活動等

● 顕彰団体 一般社団法人 どさんこ青少年オーケストラ協会

協会の代表理事・音楽監督を務める助乗慎一さん（旭川市出身）によって2013年4月に創設され、今年で10年目を迎えます。

「咲かせよう、北の大地にジュニアオーケストラの花を！」を合い言葉に、道内5箇所（江別市・岩見沢市・旭川市・名寄市・音更町）にジュニアオーケストラを設立し、運営・指導を行っています。

演奏会では、経験年数に限らず、初心者から上級者まで全員がステージに上がり、子どもたち自身が文化芸術活動を盛り上げ、経験を通して成長することを大切にしています。

また、道内各地のジュニアオーケストラ等と交流・親睦を図る「北海道少年少女フェスティバル」を年に1回開催し、地域の枠を超えた文化芸術の振興を深めています。

さらに、アジア諸国を中心とした海外へ継続的に青少年を派遣し、交流演奏会や楽器指導ボランティア等の国際貢献活動を行い、青少年に地域・歴史・文化を超えた貴重な経験の場を積極的に提供しています。

「地方から文化の発信」を大切に、各地での活動を継続し、文化を根付かせ、ジュニアオーケストラがさらに発展すること、各都市でまちづくり、国際貢献、文化振興活動の一助となることを目標に取り組んでいます。



バイオリンの練習



台湾との交流演奏会

「道民家庭の日」 関連事業

ほーほーくんが「道民家庭の日」啓発活動に奮闘!!

コロナ禍で登場する機会が少なくなっていたほーほーくんですが、今年は様々な行事やイベントなどに参加し、「道民家庭の日」のPR活動に奮闘しています。

“社会を明るくする運動”メッセージ伝達式に参加しました

札幌エルプラザで開催された“社会を明るくする運動”メッセージ伝達式に、イメージキャラクターのホゴちゃんと一緒に、ほーほーくんが参加しました。7月は「社会を明るくする運動強調月間」であり、運動の広がりを願い、会場を盛り上げました。

実施日・場所 2023年6月30日(金)・札幌エルプラザ ホール

参加人数 約150名(“社会を明るくする運動”北海道推進委員会など)



北海道開拓の村「写生会」に、ほーほーくんが登場しました

家族ふれあい協賛店・施設に加入している、北海道開拓の村が毎年開催している「写生会」にほーほーくんが登場し、来村した親子連れや観光客とふれあいました。

写生会に参加する子ども達は、ほーほーくんを見つけると走って駆け寄り、抱きついたり、声を掛けたり、満面の笑顔が見られ、楽しい思い出ができたと思います。

実施日・場所 2023年7月8日(土)・北海道開拓の村

参加人数 約200名(写生会参加の幼児・小学生を対象)



「ホゴちゃん」と一緒に合同街頭啓発を実施しました

7月は国が定める「青少年の非行・被害防止全国強調月間」です。毎月実施しているJR札幌駅での「道民家庭の日」街頭啓発を、社明運動の「ホゴちゃん」と一緒に実施し、青少年の被害防止を啓発しました。2キャラクターが登場すると、子ども達や観光客が、握手や記念撮影をを求めるなど人気を集めました。

実施日・場所 2023年7月14日(金)・JR札幌駅西口コンコース

参加機関等 道、道教委、道警、社明運動北海道推進委員会、育成協



賛助会員のご案内

道内の青少年育成運動を幅広く、力強く推進していくため、当協会の活動に賛同していただける賛助会員を募集しています。現在、普通賛助会員45名・51団体、特別賛助会員143団体、合計239団体・個人の方にご入会いただいています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

会員の種類及び会費

(1) 普通賛助会員

個人 一口 年会費 1,000円

青少年関係団体 一口 年会費 5,000円

(2) 特別賛助会員

法人及び地方公共団体 一口 年会費 10,000円

賛助会員の皆様には、機関誌や講演録集をお送りします。

ご入会ありがとうございます

令和5年度のご入会者の紹介

【普通賛助会員】

中央区東地区青少年育成委員会 様 (札幌市)

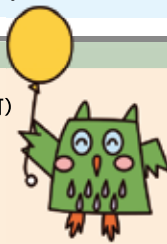
田島 廣信 様 (札幌市)

齋藤 篤嗣 様 (余市町)

松林 良子 様 (せたな町)

優待券の使い方 (コピーも可)

- 家族ふれあい協賛店や施設にこの優待券をお持ちになると料金の割引や各種サービスが受けられます。
- 道民で、18歳未満のお子様を含む家族の方に限ります。(対象人数は各店・各施設で異なります。)
- ご来店・ご来場の際に提出してください。



ホームページのご案内
アドレス <http://www.ikuseikyō.jp/>

ほーほーくんの紹介

「道民家庭の日」のイメージキャラクターのほーほーくんは緑色のかわいい子どものフクロウです。道民の皆様へ家族の絆を深めてもらえるよう、「道民家庭の日」のPR活動などで大活躍しています!

発行 令和5年(2023年)9月

発行者 公益財団法人 北海道青少年育成協会

札幌市中央区北5条西6丁目1番地23 第二道通ビル

TEL 011-231-6451 FAX 011-231-6457

Eメール youth@ikuseikyō.jp



LINEの友達登録をお願いします。

道民家庭の日
家族ふれあい

優待券

優待日
毎月第3日曜日
(※営業日などのところもあります。)

2024年3月31日まで有効

公益財団法人 北海道青少年育成協会

育成協

検索